

2014年3月18日 平成25年度卒業式

1,2年生の進級に向けての事務処理が続く中、この時期の大きな行事の1つである卒業式が14日に執り行われました。

当日深夜は徳島市で震度3程度の地震が起きましたが、幸い大きな被害も無く、朝には卒業生の門出を祝うに相応しい好天気にも恵まれました。



式典会場である徳島市立文化センターには多くの卒業生と保護者が訪れ、約1時間程度の短い時間ではありましたが、宮崎学習センター代表から卒業生一人一人に卒業証書が直接手渡された後、残念ながら時間の都合でお越しになれなかった大嶋校長先生からの祝辞が読まれました。[\(祝辞全文\)](#)



お祝いの言葉

光と風に、さわやかな春の気配が感じられる季節となりました。蛍雪の功なり、卒業証書を授与される皆様に対しまして、心からお喜びとお祝い申し上げます。また、この日を心待ちにされた保護者の皆様、お子様の晴れのご卒業、さぞ御満足で、感慨もひとしおのものがあるかと拝察いたします。ここに教職員一同を代表いたしまして心からお喜びを申し上げたいと思います。

卒業生の皆様の脳裏には、卒業までの数々の出来事がよみがえっていることと思います。さまざまな困難を抱えながらも一生懸命スクーリングやレポートに取り組み、見事に卒業まで頑張り抜いたことに対しまして、最大の賛辞を送りたいと思います。

さて、卒業に当たり、皆さんの前途を祝して「はなむけ」の言葉を贈ります。

先ず、第一に河原学園の学是である「感謝の心」を忘れないでほしいということです。

人は、多くの人に支えられており、一人では生きることはできません。このことを認識できている人は、自然に、「感謝の心」をあらわす『ありがとう』という言葉が素直に出てくるはずであります。そして、その気持ちは、口に出さなければなかなか伝わらないものです。積極的に「感謝の心」を口に出しコミュニケーションを図ってください。必ずや、皆さんの人生が大きく拓けてくると確信しております。

二つ目は、「生きることは学ぶこと、学ぶことは生きること」を忘れないでほしいということです。

人間として生まれたからには、生涯をかけて学び続け、つねに自分を成長させ高めていかなければなりません。高等学校で学んだことは基礎的な内容ばかりで、本当の学びは高校を卒業してから始まります。変化の激しい現代社会は、学ぶ内容が増え続ける社会であり、つねに学習し続けなければ、自分が取り残される社会であります。絶えず自分自身を磨きあげ成長させる学びを続けてもらいたいと願っております。

三つ目は、社会に貢献できる人になってもらいたいということです。

現代の一部の若者の行動が自己中心的であるとよく言われますが、本来日本人が持っていた礼儀正しさや周囲に対する思いやりの心を忘れないでもらいたいと思います。そして、社会に貢献できる人になってもらいたいと思います。アインシュタインは『他人のために尽くす人生こそ、価値ある人生である』と述べています。自分が受け取る事しか考えない人は幸せになれず、他人に何かを与えることができる人は、自分も他人もともに幸せになることは真実でしょう。

終わりになりますが、卒業生の皆さんにおかれましては、常に感謝の心を持ちながら、人のため、社会のために貢献できる人物に精進することを願うとともに、皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。お祝いのことばいたします。

平成二十六年三月吉日

学校法人河原学園 未来高等学校長 大嶋 治